

- 第 24 回日本エイズ学会学術集会. 東京. 2010 年 11 月 25 日
150. 谷 麗君、立川-川名 愛、椎野禎一郎、細谷紀彰、鯉渕智彦、藤井 毅、三浦聡之、杉浦 互、岩本愛吉 配列特異的オリコフローブを用いた HIV-1 薬剤耐性変異検出法の開発. 第 24 回日本エイズ学会学術集会. 東京. 2010 年 11 月 25 日
151. 木村雄貴、藤野真之、正岡崇志、服部純子、横幕能行、岩谷靖雅、鈴木淳巨、渡邊信久、杉浦 互. HIV-1 のタルナヒル耐性獲得機構の酵素 学的構造学的解明. 第 24 回日本エイズ学会学術集会. 東京. 2010 年 11 月 25 日
152. Shingo Kato. Quantification of HIV-1 RNA in clinical serum samples by the Poisson distribution-based method. The 4th Japan-Germany HIV/AIDS Symposium. 2009, March 23- 24, Bochum, Germany.
153. Itoda I. HIV/STI services to MSM in Japan in the private sector. Consultation on Health Sector Response to HIV/AIDS among MSM (18-20 February, 2009, Hong Kong (CHINA SAR)
154. Tee, KK., Pybus, OG, Parker, J., KEE PENG NG, KP., Kamarulzaman, A., Takebe, Y., Estimating the □date of birth□ of an HIV-1 CRF IAS 2009 (July 19-22, 2009, Cape Town, South Africa)
155. Takebe, Y., Li, Y., Tee, KK., Liao, H., Hase, Uenishi, R., Pybus, OP., and Lemey, P. Visualization of the space-time process of the HIV-1 expansion and recombination in Asia: its biological implications. The 9th Awaji international forum on infection and immunity (Sept 8-11, 2009, Awaji Yumebutai, International Conference Center, Japan)
156. Takebe, Y., Uenishi, R., Hase, H., Liao, H., Gustafson, K., McMahon, JB., and O' Keefe, BG. Potent Inhibition of HCV Entry by Newly Identified Carbohydrate Binding Proteins. 6th international symposium on hepatitis C virus and related viruses (October 3-7, 2009, Nice, France)
157. Liao, H., Tee, KK., Li, Y., Hase, S., Uenishi, R., Pybus, OP., and Takebe, Y. The space-time process of HIV-1 CRF01\_AE dispersal in Asia. 50th Annual Meeting of the Japanese Society of Tropical Medicine (October 22-23, 2009, Okinawa,)
158. Takebe, Y., Li, Y., Liao, H., Hase, S., and Uenishi, R. Unusual evolutionary characteristics of CRF15\_01B: Evidence for preferred configuration of HIV-1 recombination. 10th Annual Symposium on Antiviral Drug Resistance (SADR2009) (Nov. 15-18, 2009, Virginia, USA).
159. Uenishi, R., Hase, S., Li, Y., Liao, H., Gustafson, K., McMahon, JB., and O' Keefe, BG., Suzuki, T., Wakita, T., and Takebe, Y. Identification of novel HCV entry inhibitors using HCVcc assay as a primary screening platform. HepDART 2009 (Dec. 6-10, 2009, Hawaii, USA)
160. Takebe, Y. Identification of novel HCV entry inhibitor. COBRE seminar at University of Hawaii (Dec.11, 2009, Hawaii, USA)
161. Hattori J, Yoshida S, Gatanaga H, Kondo M, Sadamasu K, Mori H, Minami R, Sugiura W:Increasing prevalence of Drug- Resistance Mutation among

- Treatment- Naïve HIV-infected Patients in Japan from 2003 to 2007. The 16th Conference on Retroviruses and Opportunistic infections (Jul. 19-22, 2009, Cape Town).
162. 加藤真吾「シンポジウム：わが国における HIV 検査戦略、我が国における HIV 検査の現状と課題」第 23 回日本エイズ学会学術集会（2009 年 11 月 26-28 日、名古屋）
  163. 植田知幸、加藤真吾「休止期 P BMC における HIV-1 感染防御機構の解析」第 23 回日本エイズ学会学術集会（2009 年 11 月 26-28 日、名古屋）
  164. 服部純子、瀧永博之、吉田繁、千葉仁志、小池隆夫、佐々木悟、伊藤俊広、内田和江、原 孝、佐藤武幸、上田敦久、石ヶ坪良明、近藤真規子、今井光信、長島真美、貞升健志、古賀一朗、太田康男、山元泰之、福武勝幸、田中理恵、加藤真吾、宮崎菜穂子、藤井 毅、岩本愛吉、西澤雅子、仲宗根正、巽 正志、椎野禎一郎、林田傭総、岡 慎一、伊部史朗、藤崎誠一郎、金田次弘、横幕能行、濱口元洋、上田幹夫、大家正義、田邊嘉也、渡辺香奈子、渡邊 大、矢倉裕輝、白阪琢磨、栗原 健、小島洋子、森 治代、中桐逸博、高田 昇、木村昭郎、南 留美、山本政弘、松下修三、藤田次郎、健山正男、堀 成美、杉浦 互「2003 - 2008 年の新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性頻度の動向」第 23 回日本エイズ学会学術集会（2009 年 11 月 26-28 日、名古屋）
  165. 須藤弘二、杉浦 互、加藤真吾「PCR-MS 法を用いた新規感染者血漿中の薬剤耐性微少集団の定量」第 23 回日本エイズ学会学術集会（2009 年 11 月 26-28 日、名古屋）
  166. 伊部史朗、横幕能行、椎野禎一郎、田中理恵、服部純子、藤崎誠一郎、岩谷靖男、間宮均人、内海 眞、加藤真吾、濱口元洋、杉浦 互「日本における HIV-2 感染症の分子疫学的解析」第 23 回日本エイズ学会学術集会（2009 年 11 月 26-28 日、名古屋）
  167. 井戸田一朗、加藤朋子、畑 寿太郎、島川眞知子、佐野貴子、近藤真規子、須藤弘二、加藤真吾、今井光信「急速な進行と多彩な合併症を伴い、初期治療に早期に失敗した急性 HIV 感染症の一例」第 23 回日本エイズ学会学術集会（2009 年 11 月 26-28 日、名古屋）
  168. 川畑拓也、森 治代、小島洋子、秋吉京子、近藤真規子、中澤よう子、宇宿秀三、貞升健志、長島真美、矢永由里子、今井光信、加藤真吾「HIV 検査相談体制における新型インフルエンザウイルス流行の影響」第 23 回日本エイズ学会学術集会（2009 年 11 月 26-28 日、名古屋）
  169. 村山正晃、池野 良、児玉泰光、川口玲、田邊嘉也、加藤真吾、高木律男「唾液中 HIV-1 濃度が血液中よりも高かった 3 症例」第 23 回日本エイズ学会学術集会（2009 年 11 月 26-28 日、名古屋）
  170. 近藤真規子、須藤弘二、佐野貴子、倉井華子、立川夏夫、相良裕子、岩室紳也、加藤真吾今井光信「コバス TaqMan HIV-1 での RNA 定量値がアンプリコア HIV-1 モニターに比べ 100 倍以上低値であった症例の解析」第 23 回日本エイズ学会学術集会（2009 年 11 月 26-28 日、名古屋）
  171. 田中理恵、加藤真吾「ポアソン分布を用いた血中の HIV-1 RNA 量の定量」第 23 回日本エイズ学会学術集会（2009 年 11 月 26-28 日、名古屋）
  172. 佐野貴子、西大条文一、井戸田一朗、須藤弘二、加藤真吾、近藤真規子、今

- 井光信「抗 HIV 抗体量により感染時期を推測するための検査法の検討」第 23 回日本エイズ学会学術集会（2009 年 11 月 26-28 日、名古屋）
173. 矢永由里子：HIV/エイズが問いかける古くて新しいテーマ. 第 10 回日本サイコセラピー学会、東京都、2009 年 4 月
174. 矢永由里子：医療機関における HIV 検査相談の提供について. 学会シンポジウム「わが国における HIV 検査戦略」第 23 回日本エイズ学会学術集会・総会 名古屋市、2009 年 11 月
175. 矢永由里子：エイズ治療中核拠点病院におけるカウンセリング（設置）事業の定着と発展に向けて. 第 23 回エイズ学会学術集会・総会、名古屋市、2009 年 11 月
176. 岳中美江、榎本てる子、岡部正子、岡本学、土居加寿子、松浦基夫、山中京子、藤山佳秀、市川誠一：大阪・土曜日常設 HIV 検査事業における受検者の動向（2008）、第 23 回日本エイズ学会学術集会・総会、2009 年、名古屋
177. 加藤朋子、三木猛、井戸田一朗. しらかば診療所における HIV 抗体検査複数回受検者の背景. 第 23 回日本エイズ学会学術集会・総会.（平成 21 年 11 月 26 日-28 日、名古屋）
178. 武部豊、上西理恵、長谷彩希、廖華南、Kirk Gustafson, James B Macmahon, Barry G O' Keefe. 新規マンノース特異糖鎖結合タンパク質による nM オーダーの強力な HCV/HIV-1 エントリー阻害. 第 57 回日本ウイルス学会（2009. 10. 25- 10. 27. 東京）
179. 武部豊、廖華南、Kok Keng Tee, 上西理恵、長谷彩希、Oliver Pybus, Philippe Lemey. CRF01\_AE 世界伝播の時間的・空間的ダイナミックスの可視化：Bayesian phylogeography-分子疫学研究の新しい解析ツール. 第 57 回日本ウイルス学会（2009. 10. 25- 10. 27. 東京）
180. 松原明弘、高村史記、加藤翔太、草川茂、武部豊、森一泰、永井美之、保富康宏. SIV mac239 Env gp120 アスパラギン結合型糖鎖の宿主免疫応答に対する影響. 第 57 回日本ウイルス学会（2009. 10. 25- 10. 27. 東京）
181. Yue Li, 武部豊. 第 2 世代の組換え型流行株 CRF46\_01B の同定とその分子進化的特性. 第 57 回日本ウイルス学会（2009. 10. 25- 10. 27. 東京）
182. 武部豊、Li Yue、長谷彩希、上西理恵、廖華南、Tee Kok Keng. CRF15\_01B の起源を巡る謎：HIV-1 組換えの preferred configuration. 第 23 回日本エイズ学会（2009. 11. 26- 11. 28. 名古屋）
183. 中瀬克己、わが国における HIV 検査戦略. 第 23 回日本エイズ学会学術集会・総会、（平成 21 年 11 月 26 日-28 日、名古屋）日本エイズ学会誌 vol11.No4, 314, 2009.
184. 長島真美、新開敬行、吉田 勲、尾形和恵、原田幸子、保坂三継、貞升健志、甲斐明美：東京都における HIV 検査陽性例の解析（2004-2008 年）、第 23 回日本エイズ学会学術集会・総会、名古屋（2009. 11）
185. 椎野禎一郎、貞升健志、長島真美、服部純子、杉浦 互：国内感染者集団の大規模塩基配列データから推測される HIV 集団サイズの経時的変化、第 23 回日本エイズ学会学術集会・総会、名古屋（2009. 11）
186. HIV 検査相談体制における新型インフルエンザ流行の影響、川畑拓也、森 治

- 代、小島洋子、秋吉京子、近藤真規子、  
中澤よう子、宇宿秀三、貞升健志、長  
島真美、矢永由里子、今井光信、加藤  
真吾、第23回日本エイズ学会、名古屋、  
2009
187. 検査体制の現状と課題、川畑拓也、大  
阪公衆衛生協会感染症予防部会主催  
「感染症予防パネルディスカッショ  
ン」、大阪、2010
188. 近藤真規子、須藤弘二、佐野貴子、倉  
井華子、立川夏夫、相楽裕子、岩室紳  
也、加藤真吾、今井光信：コバス  
TaqManHIV-1でのRNA定量値がアンプリ  
コア HIV-1 モニターに比べ 100 倍以上  
低値であった症例の解析、第23回日本  
エイズ学会学術集会・総会（2009年11  
月26～11月28日、名古屋）
189. 服部純子、近藤真規子、加藤真吾、杉  
浦互 他：2003-2008年の新規HIV/AIDS  
診断症例における薬剤耐性頻度の動向、  
第23回日本エイズ学会学術集会・総会  
（2009年11月26～11月28日、名古屋）

## Ⅱ. 分担研究報告

## 1. HIV 検査相談に関する全国保健所アンケート調査 (H21 年-H23 年)

研究分担者	今井光信	(田園調布学園大学 神奈川県衛生研究所)
研究協力者	近藤真規子	(神奈川県衛生研究所微生物部)
	佐野貴子	(神奈川県衛生研究所微生物部)
	大野理恵	(神奈川県衛生研究所微生物部 HIV 研究班)
	中瀬克己	(岡山市保健所)
	須藤弘二	(慶應義塾大学 医学部微生物学・免疫学教室)
	加藤真吾	(慶應義塾大学 医学部微生物部・免疫学教室)

### 研究概要

本研究班では保健所等における HIV 検査体制の実状を把握し、また、その充実を計るため、全国の全保健所等を対象とした HIV 検査相談の検査体制・相談体制に関するアンケート調査を H21 年から H23 年に亘り毎年実施し、その解析を行った。

3 回の全国保健所アンケート調査においては、全国の保健所等の協力により、対象と施設の 80%以上 (H21 年 ; 80%, H22 年 ; 83%, H23 年 ; 82%) から回答を得ることができた。

アンケート結果では、回答の得られた保健所等で、H21 年には 97,166 件、H22 年には 89,997 件、H23 年には 84,404 件の検査が行われ、各年の陽性数と陽性率はそれぞれ 234(0.24%)、241(0.27%)、220(0.26%)であった。陽性結果を受検者本人に伝えられた件数と率は 223(95%)、214(89%)、206(94%)であった。また、陽性と分かった受検者がその後医療機関に受診したことを把握できている件数は各年で 176(75%)、176(73%)、146(67%)であった。また、陰性結果については、各年とも 98%が受検者に結果が伝えられていることが分かった。

感染症法に基づく届出に関しては、平成 21 年には陽性と分かった 234 件中の 186 件 (80%) が、平成 22 年には 191 件 (79%) が、平成 23 年には 166 件 (76%) について自施設からの報告が行われており、残りは紹介先の医療機関に届け出を依頼していることが分かった。

即日検査の実施状況に関しては、平成 21 年に即日検査を実施した保健所は、回答のあった保健所の 61%で、H22、H23 には 63%、67%と徐々に増加していることが分かった。また、土日夜間検査についても、各年で、43%、48%、50%と徐々に増加していた。

保健所以外の特設の検査相談施設を対象としたアンケート調査では、各年の対象検査相談施設数・検査数・陽性数・陽性率は 17 か所 23,702・142(0.6%) ; 19 か所 22,894・163(0.7%) ; 18 か所 26,207・167(0.6%)であった。

保健所アンケート実施の一つのきっかけでもあった誤通知問題に関しては、平成 22 年に 1 件、平成 23 年に 3 件の報告があった。

保健所において HIV 検査とともに他の性感染症検査を行う保健所も多く、受検者にとって利便性が高まる一方、異なる種類の検査が並行して進行するため、検査相談の業務がより複雑化し、誤通知のリスクも高まっているものと思われる。誤通知の防止のためには、システム全体の見直しとともに、一人一人のより注意深い対応が求められており、研究班としてもマニュアルの改訂等も含め、検査相談体制の充実にさらに努めていく必要があることが分かった。

## A. 目的

保健所等における HIV 検査体制の実状を把握し、その充実を計るため、全国の全保健所等を対象に HIV 検査相談の検査体制・相談体制に関するアンケート調査を実施した。

## B. 方法

全国の保健所およびその支所等の HIV 検査相談施設と南新宿 HIV 検査相談施設等の特設 HIV 検査相談施設を対象に、平成 21, 22, 23 年に年 1 回、HIV 検査相談に関するアンケート調査票（資料 1 参照）を郵送し、返送用封筒によりアンケート調査票を回収し、結果の解析を行った。

## C. 結果

3 回の全国保健所アンケート調査において、全国の保健所等の協力により、対象とした施設の 80%以上 H21(80%)、H22(83%)、H23(82%) から回答を得ることができた。また、特設検査相談機関については、対象とした施設のほとんどからアンケート結果を回収できた。

### ① 保健所における HIV 検査相談の実施率

回答のあった保健所等施設のほとんど(99%以上)が HIV 検査相談を実施していた。

### ② HIV 検査総数と陽性率

回答の得られた保健所等で、H21 年には 97, 166 件、H22 年には 89, 997 件、H23 年には 84, 404 件の検査が行われ、各年の陽性数陽性率はそれぞれ 234(0.24%)、241(0.27%)、220(0.26%)であった。

### ② HIV 検査陽性者の結果通知と医療機関受診の把握率（図 2, 3）

陽性結果を受検者本人に伝えられた件数と率は 223(95%)、214(89%)、206(94%)であった。また、陽性と分かった受検者がその後医療機関に受診したことを把握できている件数は各年で 176(75%)、176(73%)、146(67%)であった。

また、陰性結果については、各年とも 98%が受検者に結果が伝えられていることが分かった。

### ③ 検査 HIV の確認検査陽性例の報告

HIV の確認検査陽性例の感染症法に基づく届け出に関しては、平成 21 年には陽性と分かった 234 件中の 186 件(80%)が、平成 22 年には 191 件(79%)が、平成 23 年には 166 件(76%)について自施設からの報告が行われており、残りは紹介先の医療機関に届け出を依頼していることが分かった。

### ④ HIV 検査以外の性感染症検査について

HIV 以外の性感染症については、平成 21 年には 78%、平成 22 年には 77%、平成 23 年には 84%とかなりの保健所で行われており、その内訳では、梅毒が、65%(平成 21 年)、66%(平成 22 年)、64%(平成 23 年)、クラミジア抗体が 52%(平成 21 年)、49%(平成 22 年)、49%(平成 23 年)といずれの年にも多かった。また、B 型肝炎検査に関しては、平成 21 年には 26%、平成 22 年には 26%、平成 23 年には 60%と平成 23 年において急激に実施施設が増えたことが分かった。

### ⑤ 即日検査の実施状況

即日検査の実施状況に関しては、平成 21 年に即日検査を実施した保健所は、回答のあった保健所の 61%で、H22, H23 には 63%、67%と徐々に増加していることが分かった。

### ⑥ 土曜・日曜・夜間検査の実施状況

土日夜間検査については、平成 21 年に 43%、平成 22 年に 48%、平成 23 年に 50%と徐々に増加していることが分かった。

### ⑥ 検査法と実施時間の組み合わせ

平成 23 年の調査では、通常平日の検査は 24%、通常夜間が 8%、通常土日が 1%であり、即日平日が 19%、即日夜間が 15%、即日土日が 7%であり、両検査平日が 8%、両検査夜間が 13%、両検査土日が 7%であった。通常平日の組み合わせの占める比率は平成 21 年に 31%、平成 22 年に 26%平成 23 年に 24%

と年々減少しており、逆に、即日の土日検査が平成21年4%、平成22年6%、平成23年7%と徐々に増加している。これらの傾向から多くの検査施設がより利便性の高い検査相談を提供できるよう努力し改善が進んでいることが分かった。

#### ⑦ 年間検査件数別の保健所分布

平成23年の調査では、年間検査件数別の保健所分布に関しては、年間検査件数が50件未満の保健所数は166か所(36%)、50件以上100件未満は79か所(17%)、100件以上200件未満は84か所(18%)、200件以上500件未満は94か所(20%)、500件以上1000件未満は25か所(5.4%)、1000件以上は12か所(2.6%)であった。この分布はこの3年間ほぼ同様で大きな変化は見られなかった。

#### ⑧ 年間検査件数別の検査数

平成23年の調査では、年間検査件数が200件以上の保健所数は28%であったが、そこで実施された検査件数は、検査総数の74%を占めていること、また、年間500件以上の施設は8%であるが検査数の41%を占めることが分かった。これらの結果については、ここ3年間の調査でもほぼ同様であった。

#### ⑨ 年間検査件数別の陽性率

平成23年の調査では、保健所等のHIV検査相談における陽性率は、平均では0.26%であり、年間検査数別に調べると、検査数50件未満の保健所では0.16%と低く、500-999件の施設では0.37%、1000件以上の施設では0.30%と検査数の多い施設では陽性率も高い傾向がみられた。この傾向はこの3年間ほぼ同様であった。

#### ⑩ 予約制の有無

予約制については、通常検査では平成21年に51%、平成22年に54%、平成23年に60%が、また、即日検査では83%、83%、79%であり、即日検査では多くの検査施設が予約制で実施していることが分かった。また、予約制の場合には、通所検査では、41%（平成

23年）、即日検査では71%（平成23年）で上限を設けていることが分かった。

#### ⑫ HIV検査の結果返しの期間

平成23年の調査では、通常のHIV検査を行っている保健所における検査結果返しは、1週間後が63%、2週間後が26%であった。即日検査を行っている保健所において、スクリーニング検査陽性となった時の確認検査の結果返しに関しては、1週間後が53%、2週間後が32%であった。これらの数字はここ3年間ほぼ同様であった。

#### ⑬ HIV検査の実施施設

平成23年の調査では、HIVの血清検査の実施場所としては、通常検査の場合、自保健所での実施が21%、衛生研究所への委託が39%、外部委託による検査は31%であった。また、確認検査に関しては衛生研究所への依頼が

63%で、外部委託は28%であった。即日検査の場合、迅速検査の実施者は、自施設の検査職員が69%、医師、保健師が15%、であり、確認検査は衛生研究所で行うが72%、外部委託は18%であった。これらの状況はこの3年間で大きな違いはみられなかった。

#### ⑭ 特設検査相談施設における検査相談

平成23年の調査では、18か所の特設検査相談機関での検査総数は26,207件で、陽性例は167例(0.6%)であった。これら陽性例において、受検者が陽性の確認結果を受け取りに再来所したのは160例(96%)であった。

また、この中で医療機関に受診したことが確認されている事例は137例であり、陽性結果を伝えられた160例中の86%、全陽性例中の82%であった。平成21年からのここ3年間の比較では、保健所検査が新型インフルエンザや東日本大震災等の影響もあり受検者数が減少傾向にあるのに対して、特設検査相談での受検者数は平成21年の23,702件に比べ、平成23年には25,646件と増加しており、陽性件数も平成21年の142件に比べ平成23年には167件と増加した。



## D. まとめと考察

この3年間のアンケート調査の結果、新型インフルエンザの流行や、東日本大震災の影響が重なり、社会における HIV 感染への関心が薄れた影響もあり、この3年間は保健所における HIV 検査数は 97166、89997、84404 と減少傾向が続いている。一方、特設検査相談施設における検査数は平成22年の22894件に比べ平成23年には26207件と増加していた。保健所等の検査相談に関してもより利便性の高い検査法の導入が着実に進んでおり、今後の広報の充実により、その検査数も増加に転じることが期待される。

保健所アンケート実施の一つのきっかけでもあった誤通知問題に関しては、平成22年に1件、平成23年に3件の報告があった。

平成23年の誤通知の3例はいずれも HIV 検査以外の性感染症検査に関連したものであった。一つの例では HIV 検査と並行して行っている B 型肝炎検査の検査キットを誤って HIV 検査に使用したものであり、他の2例は HBs 抗体検査と梅毒検査に関する誤通知であった。

保健所において HIV 検査とともに他の性感染症検査を行う保健所も多く、受検者にとって利便性が高まる一方、異なる種類の検査が並行して進行するため、検査相談の業務がより複雑化し、誤通知のリスクも高まっているものと思われる。誤通知の防止のためには、システム全体の見直しとともに、一人一人のより注意深い対応が求められており、研究班としてもマニュアルの改訂等も含め、検査相談体制の充実さらに努めていく必要があることが分かった。

## 謝辞

保健所の様々な業務で忙しい中、アンケート調査にご協力頂いた全国の保健所等関係者の皆様方に深く感謝致します。

## E. 研究発表

### 原著論文

1. Shima-Sano, T., Yamada, R., Sekita, K., Hankins, R. W., Horr, H., Seto, H., Sudo, K., Kondo, M., Kawahara, K., Tsukahara, Y., Inaba, N., Kato, S., and Imai, M. A human immunodeficiency virus screening algorithm to address the high rate of false-positive results in pregnant women in Japan. *PLoS One* 5(2):e9382. 2010.
2. Kondo, M., Sudo, K., Tanaka, R., Sano, T., Sagara, H., Iwamuro, S., Takebe Y., Imai, M., and Kato, S. Quantification of HIV-1 group M proviral DNA using TaqMan MGB real-time PCR. *J. Virol. Methods* 157(2):141-146. 2009.
3. 加藤真吾, 今井光信. HIV 検査の新たな展開. *日本エイズ学会誌* 13(3):132-136. 2011.
4. 今井光信, 加藤真吾. HIV 検査—最近のスクリーニング検査と遺伝子検査の進歩—. *日本臨床* 68(3):433-438. 2010.
5. 佐野(嶋)貴子, 山田里佳, 谷口晴記, 近藤真規子, 今井光信, 塚原優己妊娠と HIV 感染. *臨床検査*. 53(4):467-471. 2009.

図1

上HIV検査指針  
研究班

## 保健所等におけるHIV検査体制に関する 全国調査の結果

(2012年2月15日)

2012年2月15日現在

保健所アンケート 回答数 (2012.2/15現在) 461/560箇所 (82%)

2011年にHIV検査を実施した保健所 460/461箇所 (99.8%)

2011年に陽性結果のあった保健所 115/460箇所 (25%)

陽性件数 220/84,404 (陽性率 0.26%)

陽性結果を伝えられた件数 → 206/220 (94%)

受診したことを把握できた件数 → 146/220 (66%)

発生同行調査の報告を行った感染者数件数 → 166/220 (76%)

(陰性結果を伝えられた件数 → 82,702/84,184 (98%))

図2

上HIV検査指針  
研究班

## 保健所等におけるHIV検査体制に関する 全国調査の結果

(2012年2月13日)

特設検査機関アンケート 回答数 (2012.2.13現在) 18/19箇所 (94%)

2011年にHIV陽性結果のあった特設検査機関 16/18箇所

陽性件数 167/26207 (陽性率 0.6%)

陽性結果を伝えられた件数 → 160/167 (96%)

受診したことを把握できた件数 → 137/167 (82%)

(陰性結果を伝えられた件数 → 25,646/26,040 (98%))

図3

(2011年)

### 保健所HIV検査 — 即日検査と通常検査 —

(460件中)

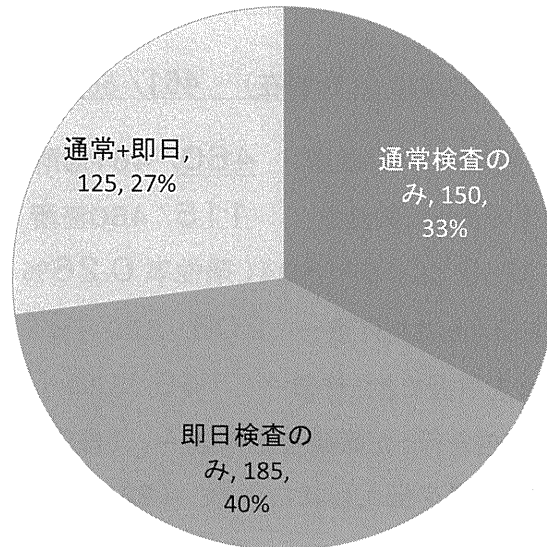


図4

(2011年)

### 保健所HIV検査 — 平日、夜間、土曜・日曜 —

(460件中)

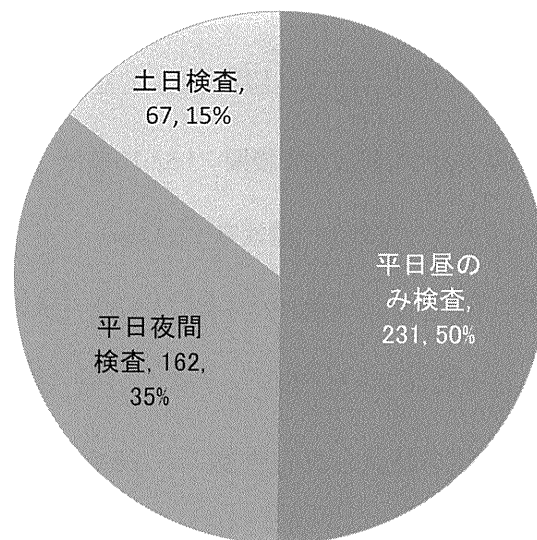


図5

(2011年)

各種HIV検査の実施状況 (保健所数の割合)

(460件中)

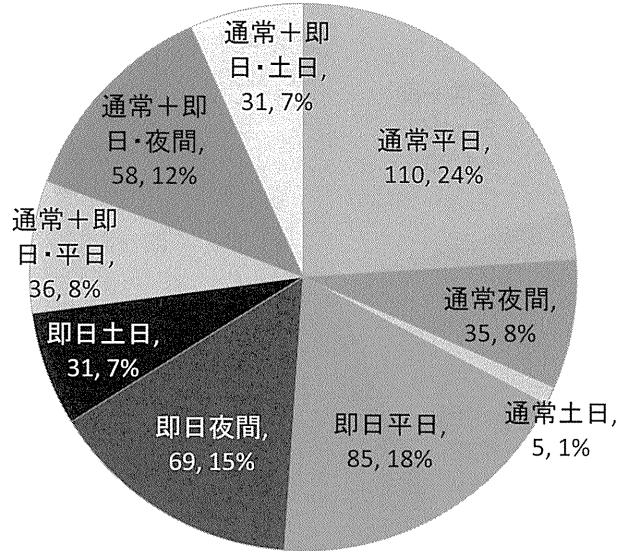


図6

(2011年)

各種HIV検査の受検者数(%)

(n=84,404)

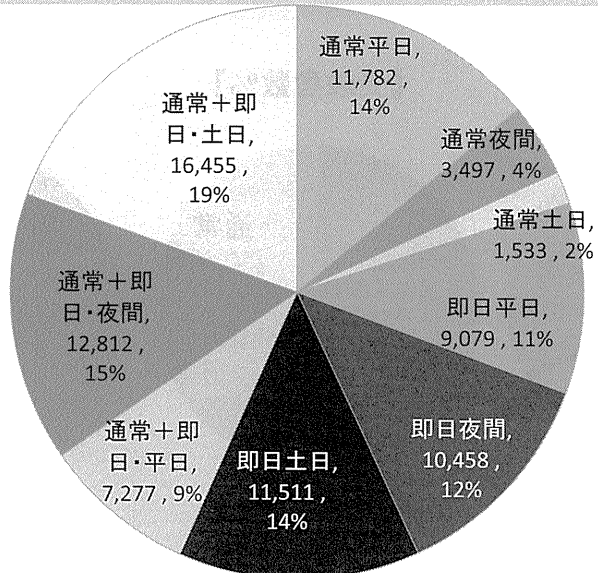


図7

(2011年)

### 各種HIV検査の陽性者数(%)

(n=220)

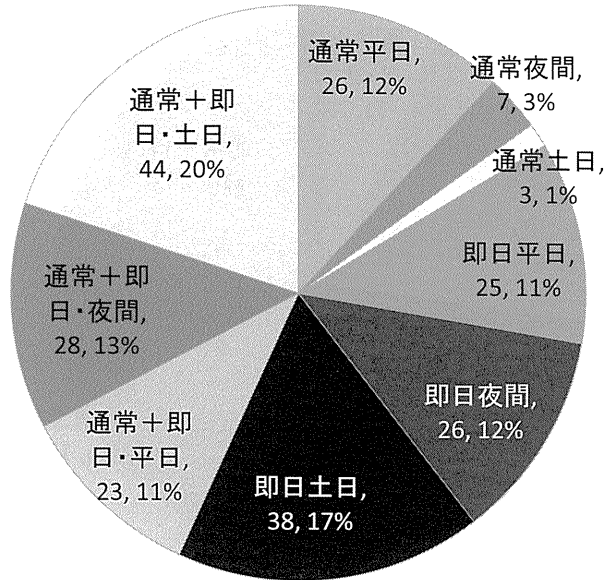


図8

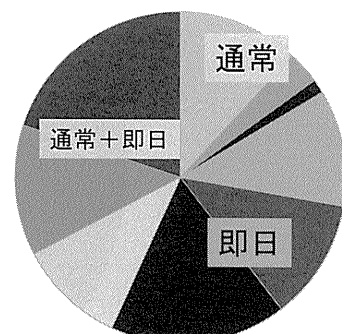
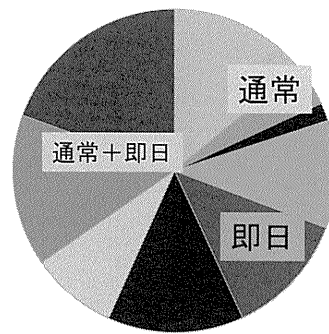
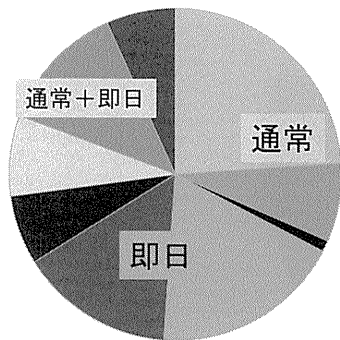
(2011年)

### 各種HIV検査の実施状況

【保健所数の割合】

【受験者数%】

【陽性者数%】



- 通常平日
- 即日平日
- 通常+即日・平日

- 通常夜間
- 即日夜間
- 通常+即日・夜間

- 通常土日
- 即日土日
- 通常+即日・土日

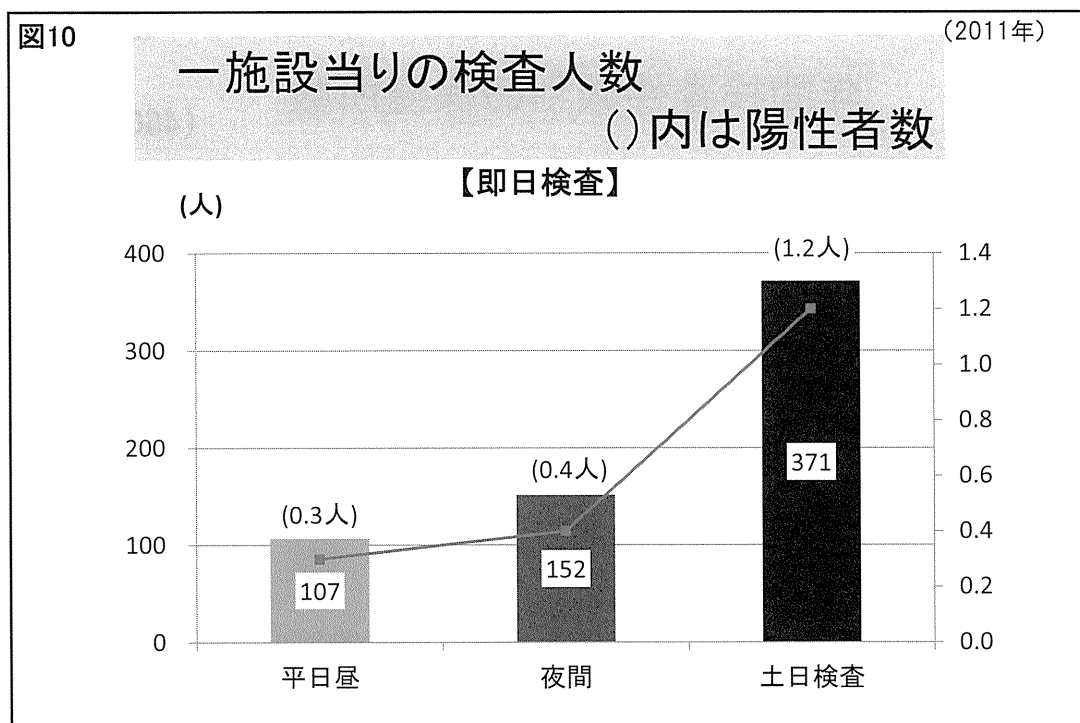
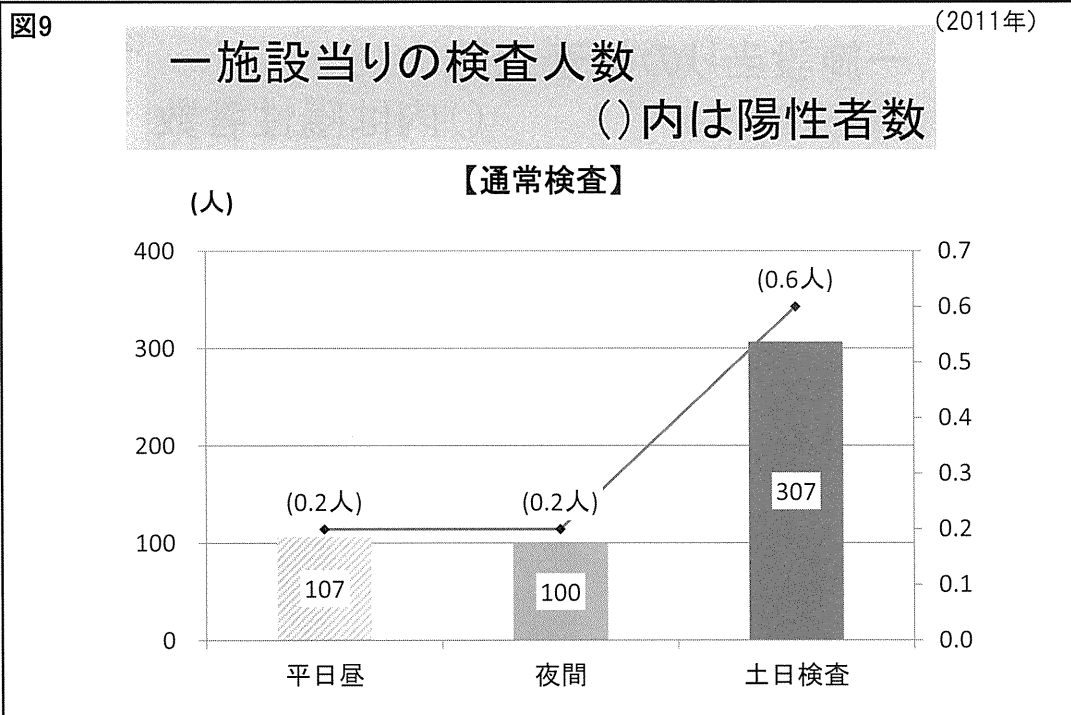


図11

一施設当りの検査人数

(2011年)

( )内は陽性者数

【通常+即日】

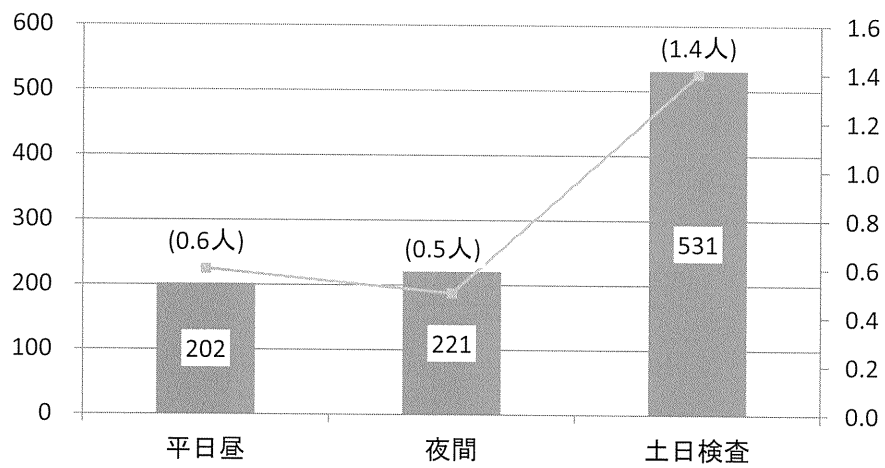


図12

(2011年)

年間検査件数別の保健所数

(460件中)

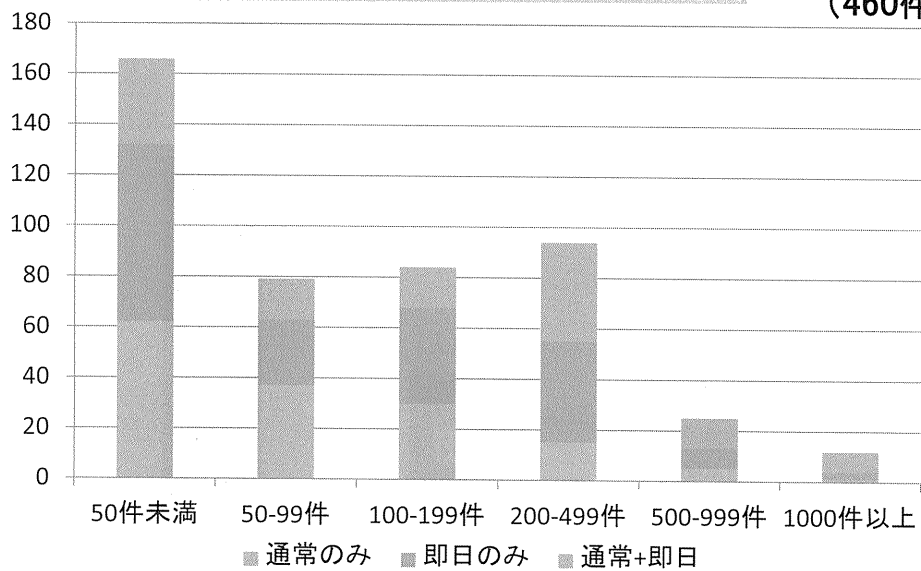


図13

年間検査件数別の  
保健所数と検査数の割合

(2011年)

【保健所数】

【検査人数】

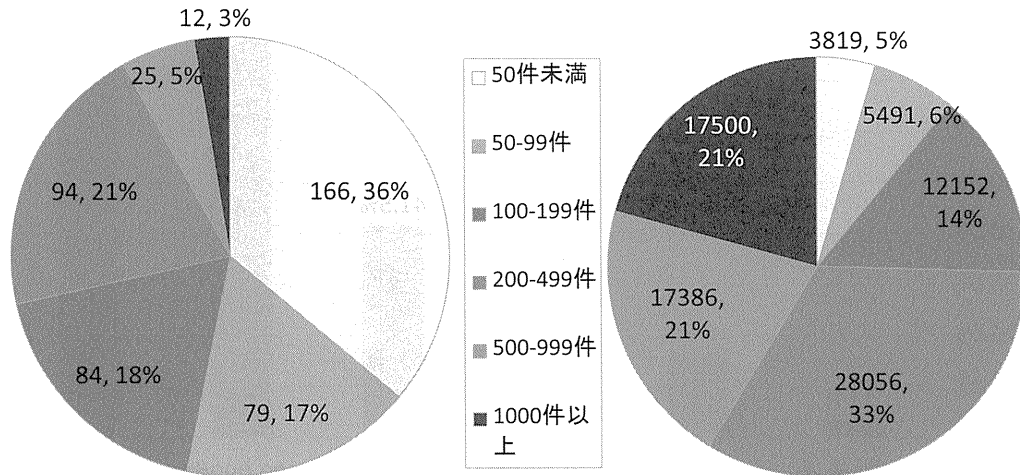


図14

年間検査件数別の陽性率

(2011年)

